

# 「みんなが幸せを実感できる

## 元気なまち こおり」を目指して

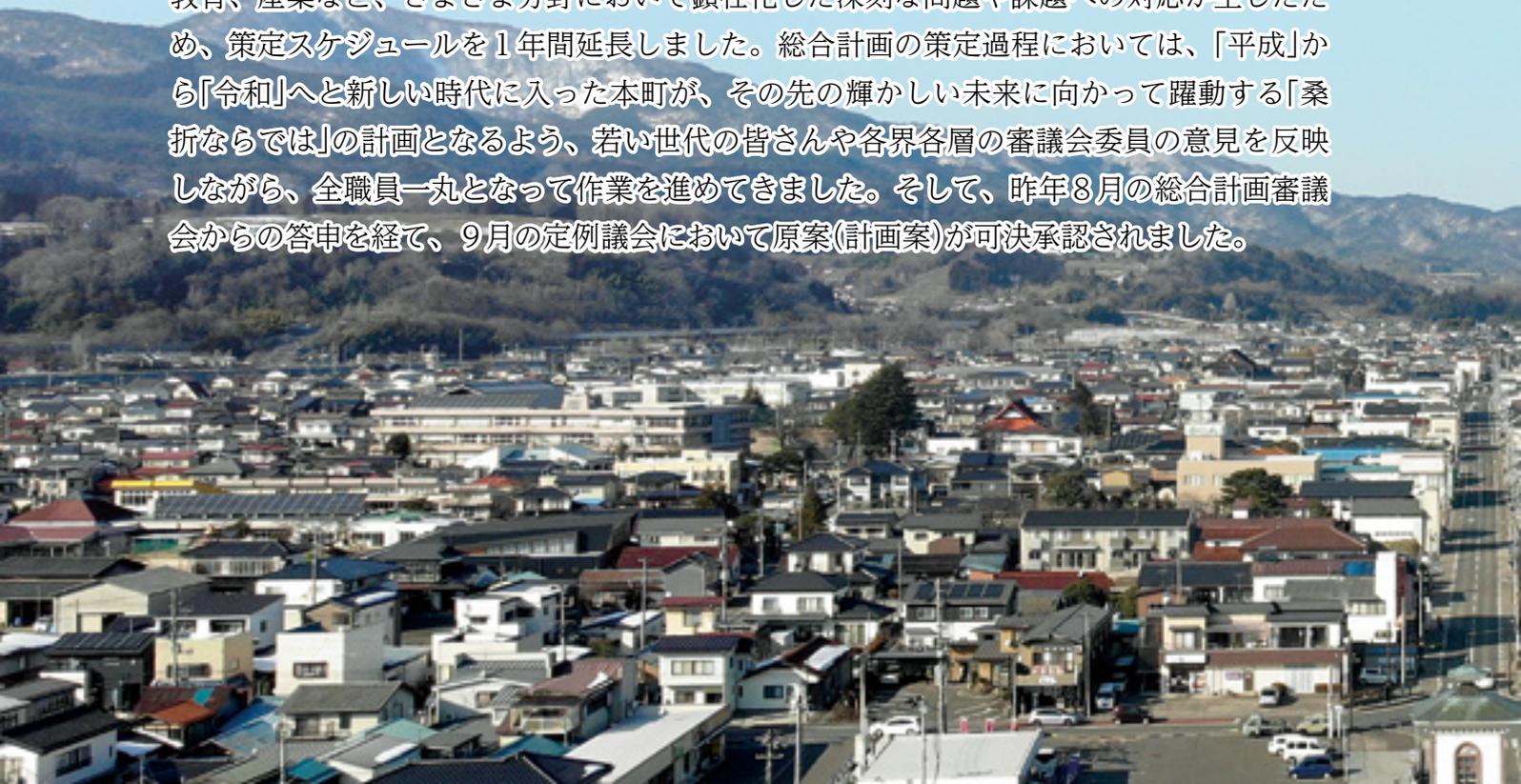
町民の皆様には、日頃から、町政運営に対しご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本町は、平成28年12月に総合計画「献上桃の郷こおり創生プラン」を策定し、町の未来像である「みんなとつながりみんなが活躍できる安心のまち桑折」の実現に向け、鋭意各種事業に取り組んでまいりました。

計画の最終年次となる令和3年は、役場新庁舎の開庁や28年連続となる本町産桃の天皇家・宮家への献上、相馬福島道路の東北自動車道との結節と全線開通、桑折西山城の魅力を全国に発信した「第28回全国山城サミット桑折大会」の開催、早期の利活用が待ち望まれていた福島蚕糸跡地への「商業施設を核としたここにしかない複合施設」の誘致決定など、現総合計画の総仕上げの年にふさわしく、これまでの取り組みが結実した年でありました。

迎えた令和の時代は、コロナ禍の克服はもとより、人口減少・超少子高齢社会の到来や激甚・頻発化する自然災害、デジタル社会の進展、地方創生SDGsの推進など、多くの課題への対応が求められます。

こうした激変する社会情勢にしっかりと向き合い、柔軟な思考でスピード感をもって、「変革と創造」を遂げなければならないことから、令和元年9月から新たな総合計画の策定に着手し、本来であれば、最終年次の令和3年度を待たずに、1年前倒しで完成する考えでしたが、令和2年からの新型コロナウイルス感染症拡大により住民生活や医療・福祉、教育、産業など、さまざま分野において顕在化した深刻な問題や課題への対応が生じたため、策定スケジュールを1年間延長しました。総合計画の策定過程においては、「平成」から「令和」へと新しい時代に入った本町が、その先の輝かしい未来に向かって躍動する「桑折ならでは」の計画となるよう、若い世代の皆さんや各界各層の審議会委員の意見を反映しながら、全職員一丸となって作業を進めてきました。そして、昨年8月の総合計画審議会からの答申を経て、9月の定例議会において原案(計画案)が可決承認されました。





桑折町長 高橋宣博

総合計画は、未来に向かうためのまちづくりの羅針盤となるものです。本総合計画「献上桃の郷こおり 未来躍動プラン」では、活力や元気あふれる“輝かしい”未来の姿を「町の将来像」として掲げ、「6つの基本方針」に基づく「新規性」「桑折ならではの」といった個性あるまちづくりに向け、分野横断的に取り組む主要な施策を「6つの重点プロジェクト」に打ち出し、計画全体をけん引しながら、各種施策を中長期的な視点で展開してまいります。また、サブタイトルとして「6恵6幸こおり 未来プラン」と名付け、町民の皆様への浸透を図りながら、計画の着実な実現を目指してまいります。

このたび、総合計画書の製本に当たり、中学生から寄せられた作文には、郷土への強い愛着とともに、町の発展への願いと期待を綴った文章が溢れており、子どもながらに熱い思いを抱いているものだと、大変感銘を受けるとともに、詩人・坂村真民の「あとから来る者のために」を思い起こしました。

今に生きる私たち大人は、次代を担う子どもたちのために、時代の潮流を見誤ることなく、常に変革をとげながら、先人から受け継いできた恵まれた地域資源をしっかりと守り、活かし、将来にわたり、町民みんなが「いつまでも住み続けたい」と思えるまちづくりを進めていかなければなりません。

私は、町を想い、愛する、すべての人たちとともに、将来に向かって、新総合計画でうたう「みんなが幸せを実感できる 元気なまち こおり」を創造していくために、全力で行政執行に当たってまいります。

結びに、本計画策定に当たり、貴重な提言をいただきました総合計画審議会委員、そして、ご理解とご支援、ご協力をいただいた町議会をはじめ町民の皆さんに、心から御礼申し上げます。

